

平成25年3月29日

平成24年度学校保健統計調査（確定値）の公表について

このたび、平成24年度学校保健統計調査の調査結果（確定値）を取りまとめたので、公表します。

1. 調査の概要

- (1) 調査目的：学校における幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）の発育及び健康の状態を明らかにすること。
- (2) 調査対象：満5歳から17歳までの児童等の一部（抽出調査）。
抽出率 発育状態：全幼児、児童及び生徒の 4.9%
健康状態：全幼児、児童及び生徒の 23.4%
- (3) 調査事項：児童等の発育状態（身長、体重及び座高）及び健康状態（疾病・異常の有無）
- (4) 調査時期：学校保健安全法による健康診断の結果に基づき、平成24年4月1日から6月30日の間に実施。

2. 調査結果の主な特徴点は、別添のとおり。

<担当> 生涯学習政策局調査企画課
課長 西澤立志（内線2254）
課長補佐 土山欽一（内線2255）
専門調査係長 山本典子（内線2262）
電話：03-5253-4111（代表）03-6734-2260（直通）

平成24年度学校保健統計調査 調査結果のポイント

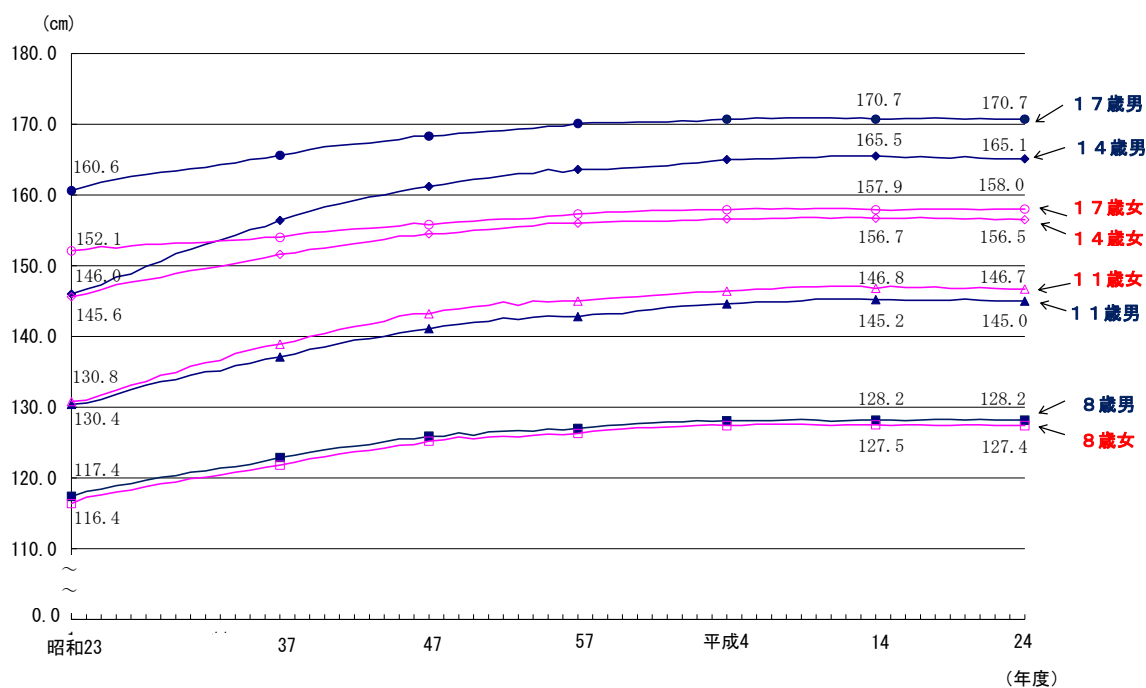
1. 身長（平均値）

	男子	女子
5歳(幼稚園)	110.5	109.5
6歳(小学校1年生)	116.5	115.6
7歳(小学校2年生)	122.4	121.6
8歳(小学校3年生)	128.2	127.4
9歳(小学校4年生)	133.6	133.4
10歳(小学校5年生)	138.9	140.1
11歳(小学校6年生)	145.0	146.7
12歳(中学校1年生)	152.4	151.9
13歳(中学校2年生)	159.5	155.0
14歳(中学校3年生)	165.1	156.5
15歳(高校1年生)	168.4	157.2
16歳(高校2年生)	169.8	157.6
17歳(高校3年生)	170.7	158.0

(注)年齢は、4月1日現在の満年齢である。以下の各表において同じ。

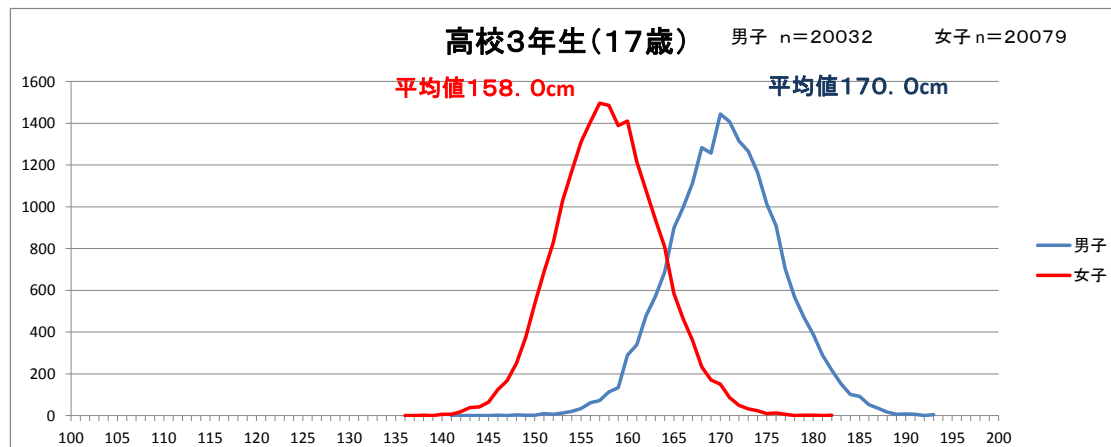
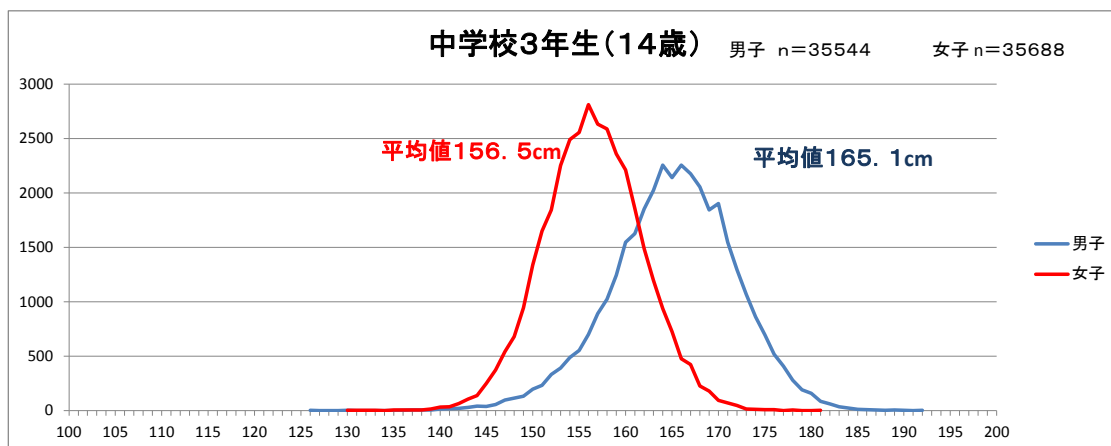
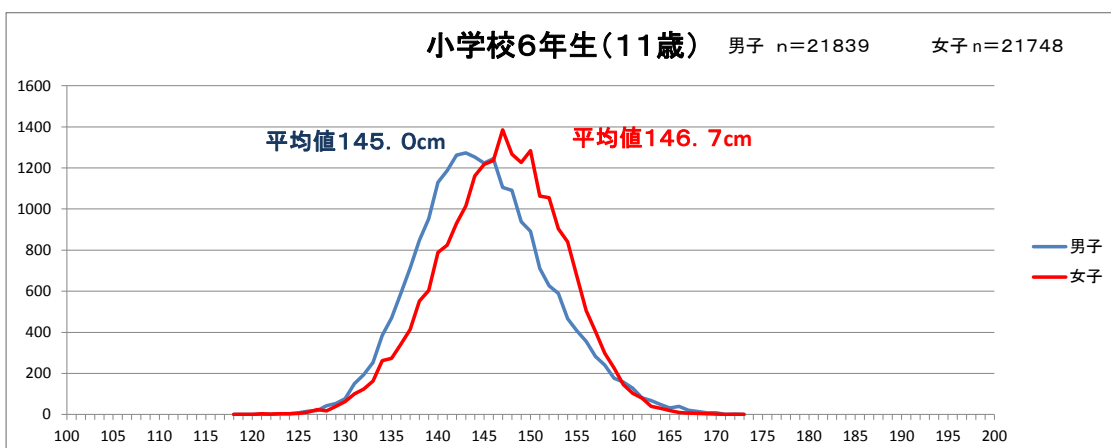
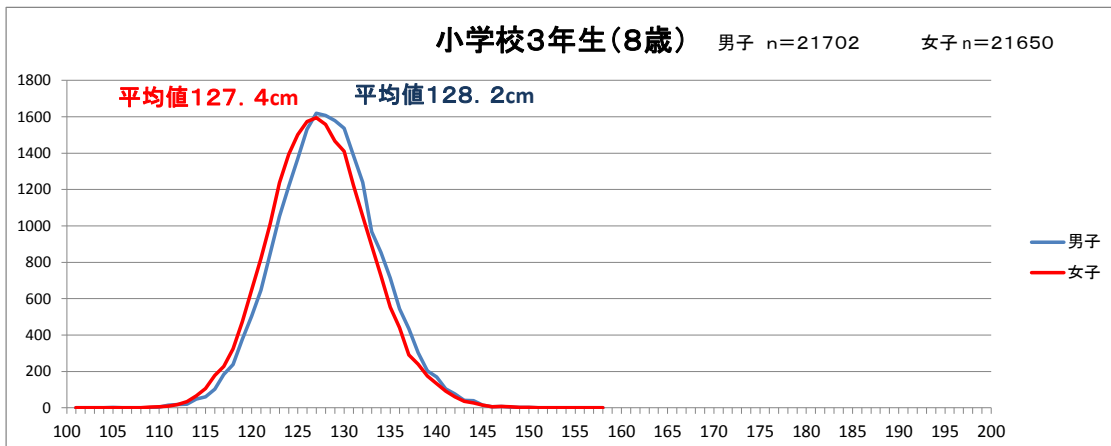
○身長の平均値の推移

身長の平均値の推移は平成9年～平成13年度あたりをピークに、その後横ばい傾向である。



(参考)身長の分布図

小学校6年生では、第二次性徴が早く始まる女子の方が背が高くなっている。
中学校3年生では、男子の方が女子を上回っているが、個人差が大きいことがわかる。
高校3年生では、男女とも中学校3年生から大きな差はなく、身長の伸びが終了しつつある。

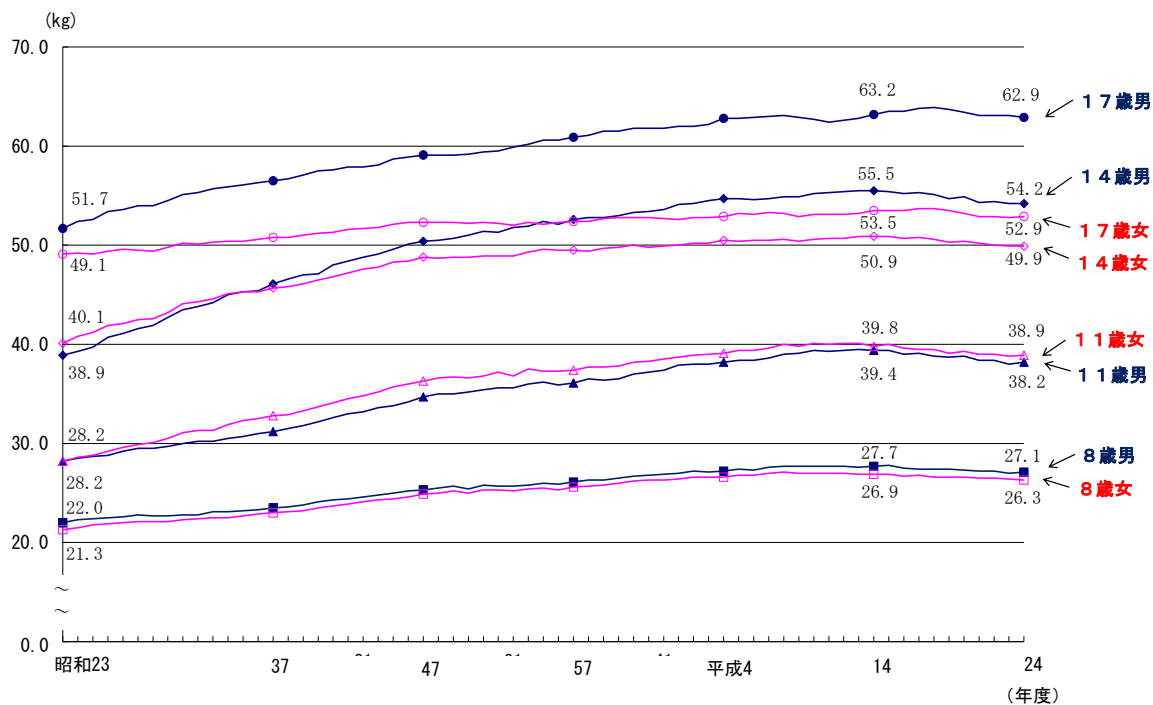


2. 体重（平均値）

	(kg)	
	男子	女子
5歳(幼稚園)	18.9	18.5
6歳(小学校1年生)	21.3	20.9
7歳(小学校2年生)	24.0	23.5
8歳(小学校3年生)	27.1	26.3
9歳(小学校4年生)	30.5	29.9
10歳(小学校5年生)	34.0	34.0
11歳(小学校6年生)	38.2	38.9
12歳(中学校1年生)	44.0	43.7
13歳(中学校2年生)	49.0	47.4
14歳(中学校3年生)	54.2	49.9
15歳(高校1年生)	59.2	51.6
16歳(高校2年生)	61.1	52.5
17歳(高校3年生)	62.9	52.9

○体重の平均値の推移

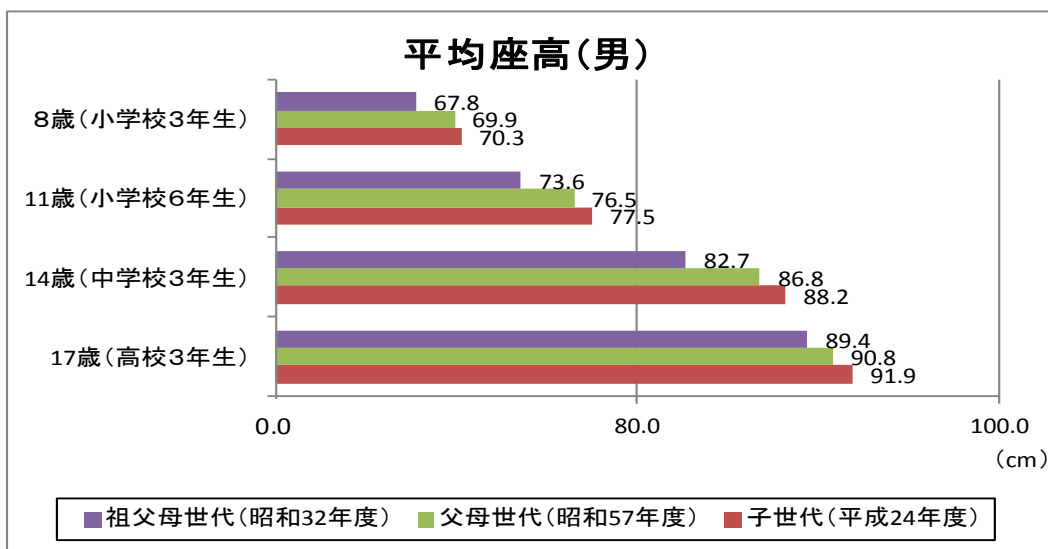
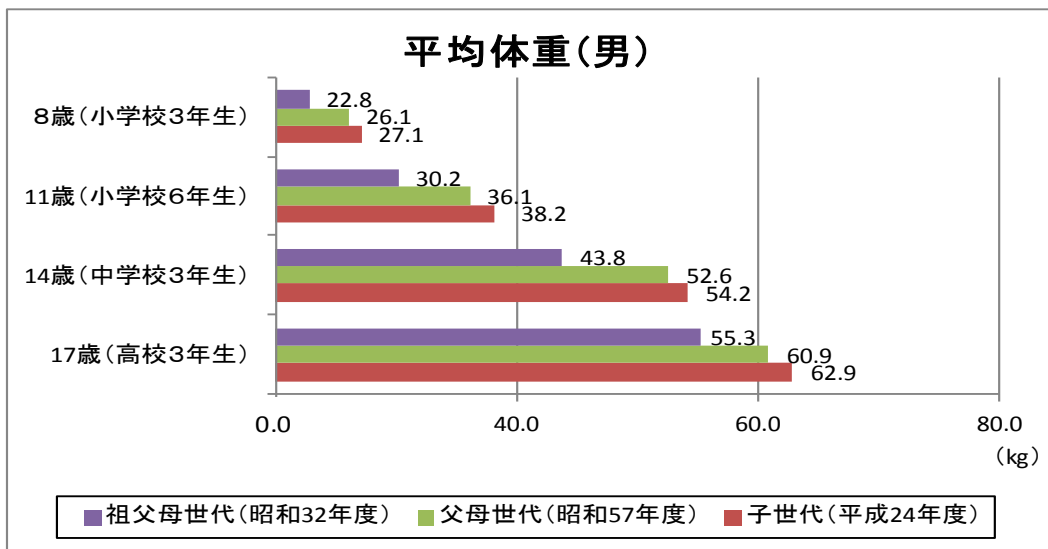
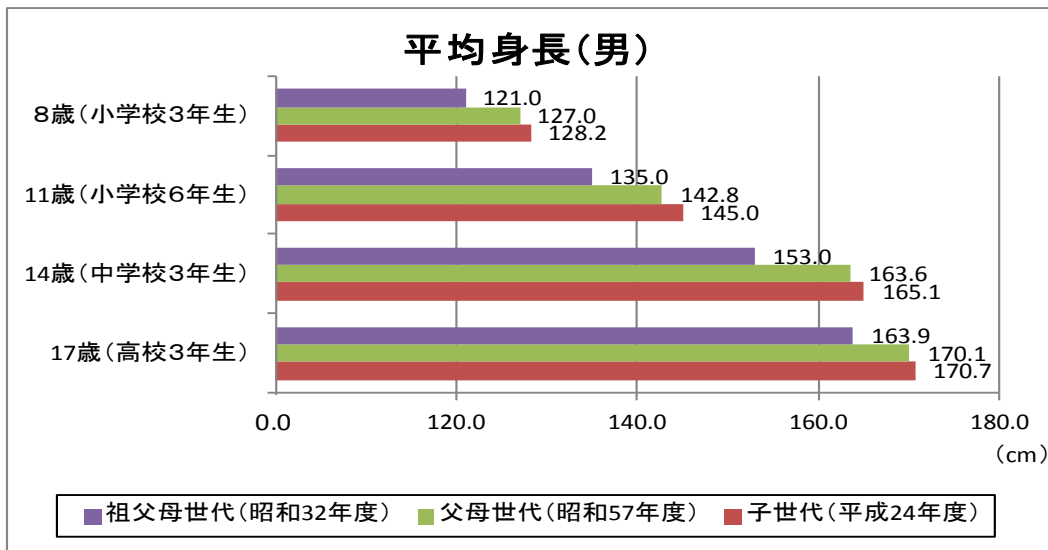
体重の平均値の推移は平成10年～15年度あたりをピークに、その後減少傾向がうかがえる。

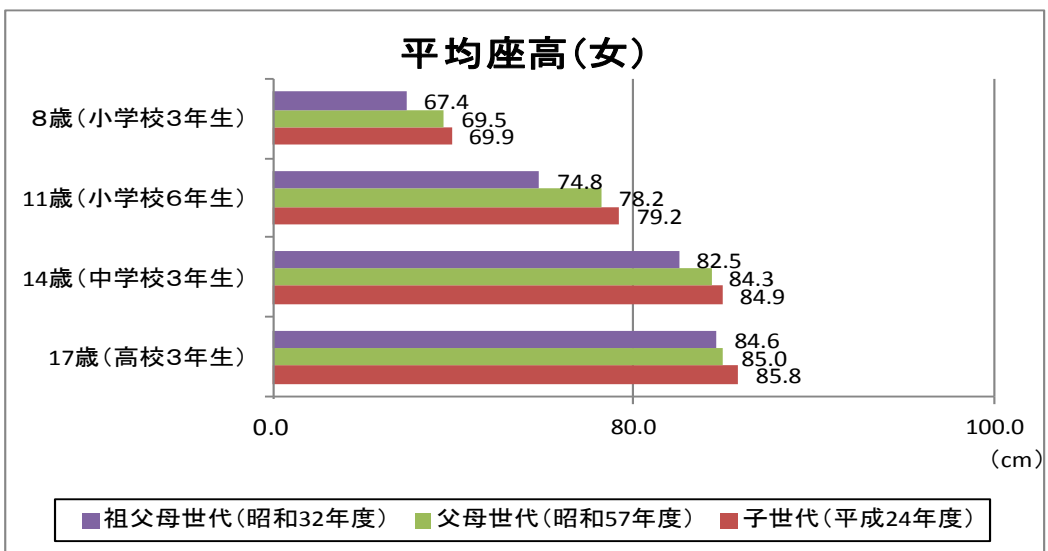
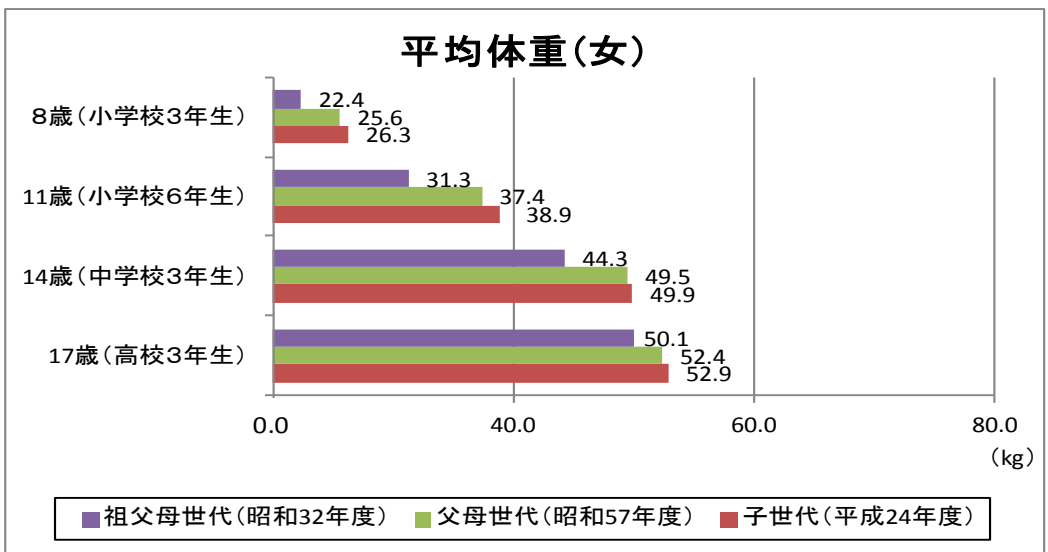
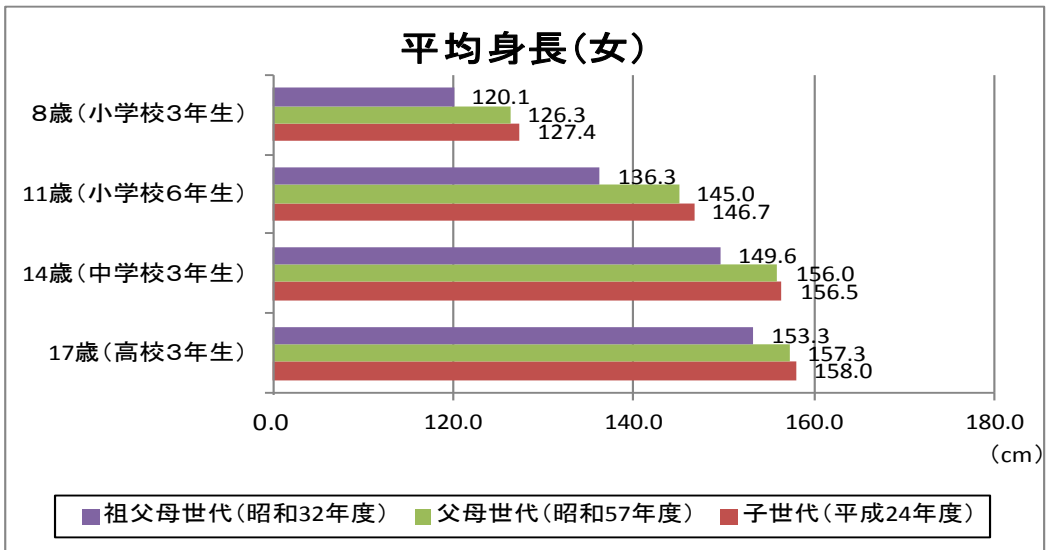


3. 世代間比較(身長・体重・座高)

子世代、父母世代(30年前)、祖父母世代(55年前)を比較すると、身長・体重とも概ね増加していることがわかる。全体的には祖父母世代に比べて父母世代が大きく増加している。父母世代と子世代の間でも増加しているが、祖父母世代と比べると増加の割合は小さい。

なお、父母世代と子世代で見ると、成長の途中段階では世代間の差が大きくなっているが、成長が完成する17歳ではその差はほとんどない。

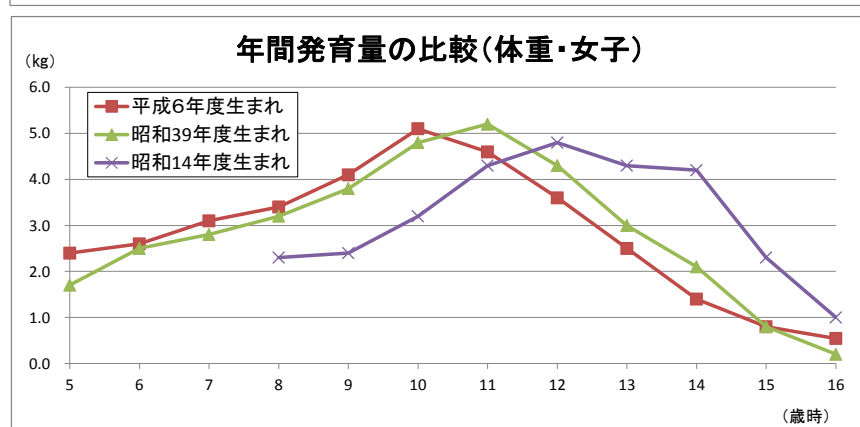
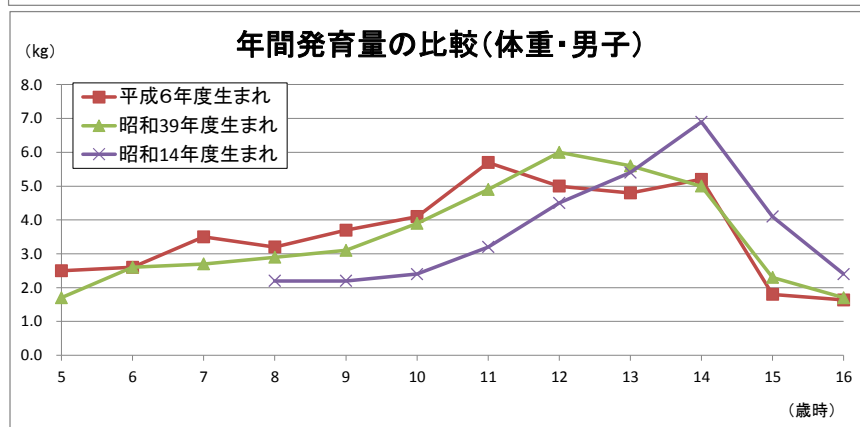
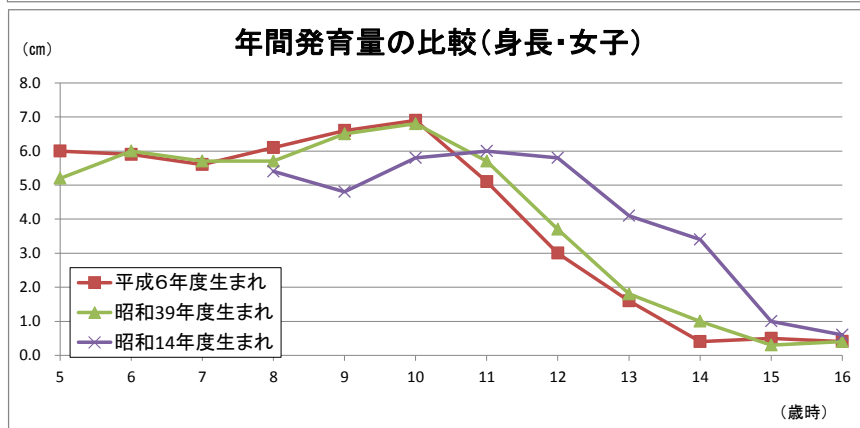
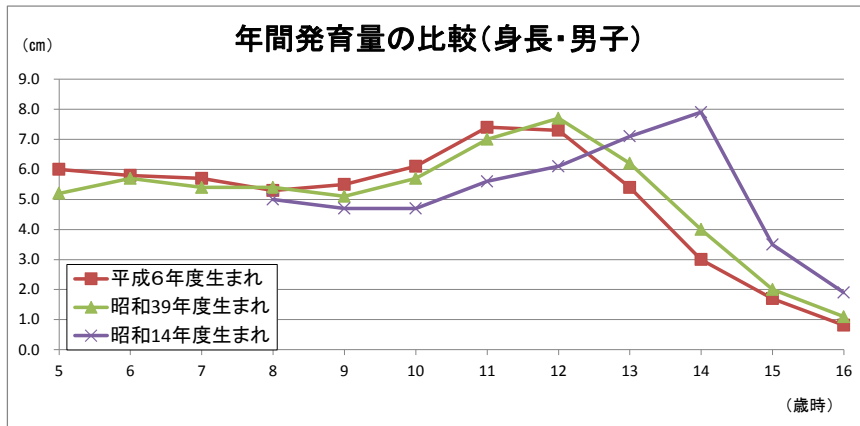




4. 年間発育量の比較(身長・体重)

年間発育量とは、例えば、平成6年度生まれ(平成24年度17歳)の「5歳時」の年間発育量は、平成13年度調査6歳の者の身長(体重)から平成12年度調査5歳の者の身長(体重)を引いた数値である。

ここでは、男女ともに身長、体重のいずれも、現代に近いほど早期に増加することがわかる。



(注) 昭和14年度生まれについては、戦争のためデータが一部欠損している。

5. 肥満傾向児の出現率

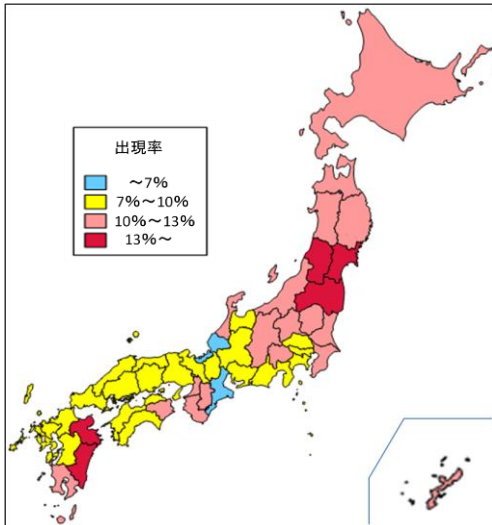
肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重を求め、肥満度が20%以上の者である。

$$\text{肥満度} = [\text{実測体重(kg)} - \text{身長別標準体重(kg)}] / \text{身長別標準体重(kg)} \times 100 (\%)$$

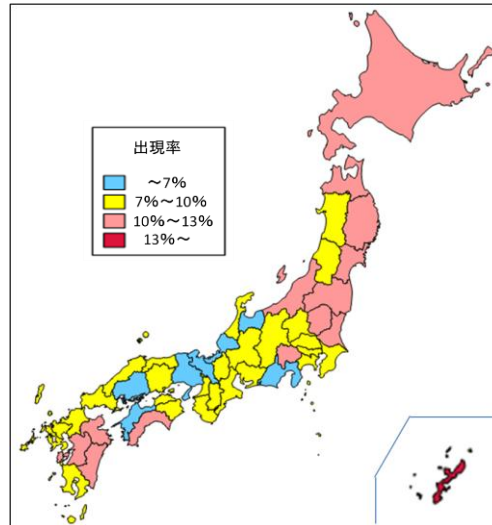
例えば、11歳男子の全国平均値9.98%とは、肥満度20%以上の者の割合が男子児童(11歳)全体の9.98%であることを意味している。

- ①都市部の方が相対的に肥満傾向児の出現率が低い傾向が見られる。
- ②男子は女子に比べ、肥満傾向児の出現率が相対的に高い傾向が見られる。

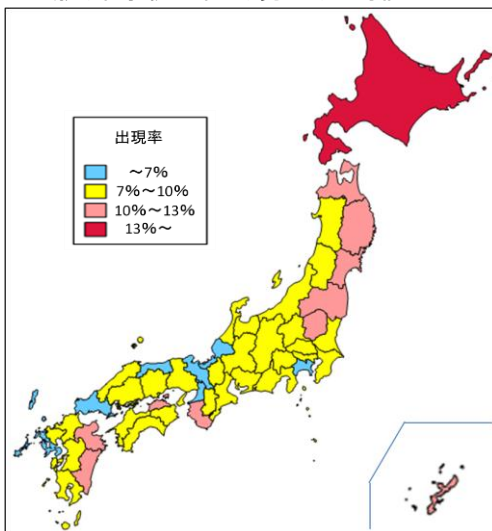
11歳(小学校6年生)男子(平均値9.98%)



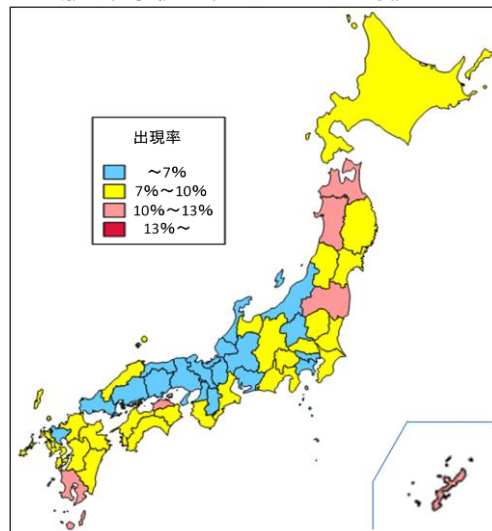
11歳(小学校6年生)女子(平均値8.61%)



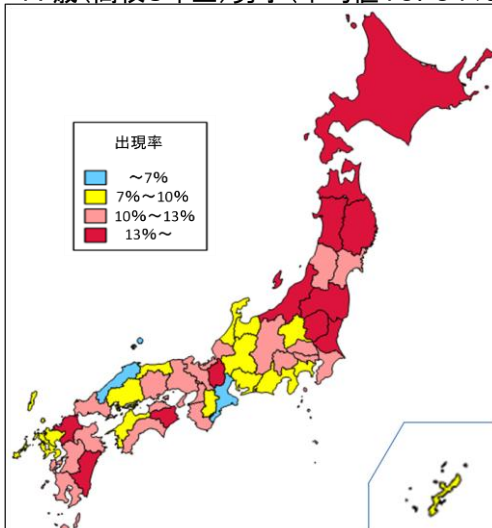
14歳(中学校3年生)男子(平均値8.43%)



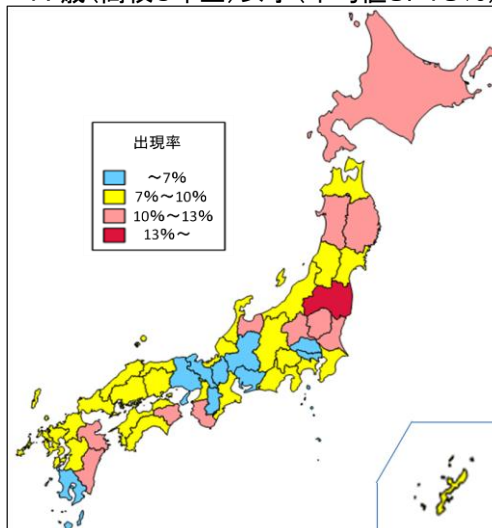
14歳(中学校3年生)女子(平均値7.36%)



17歳(高校3年生)男子(平均値10.91%)



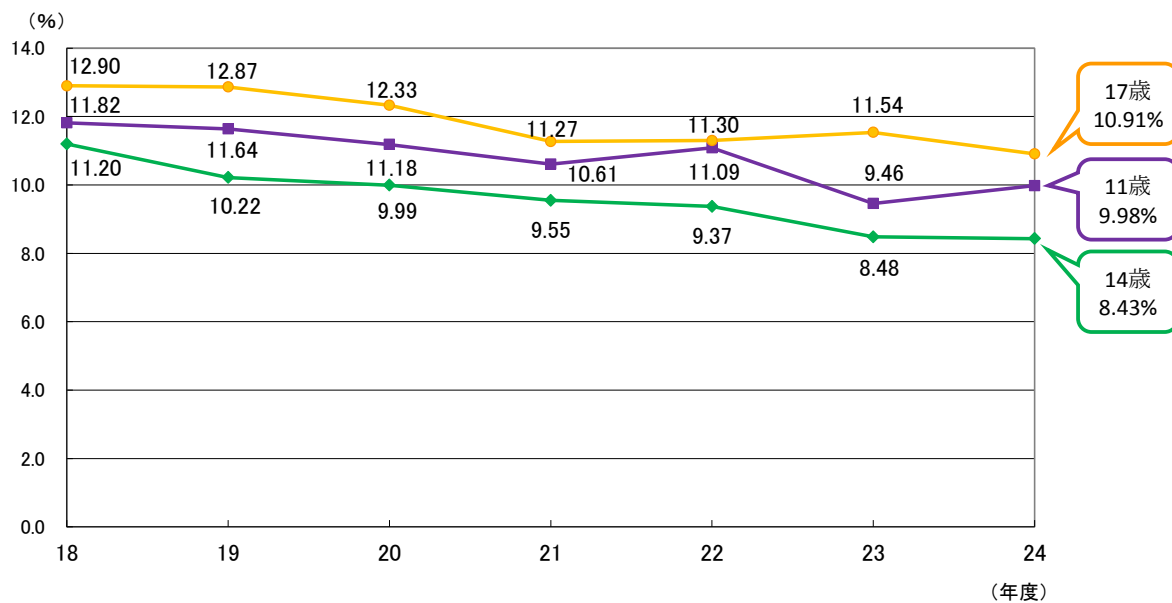
17歳(高校3年生)女子(平均値8.18%)



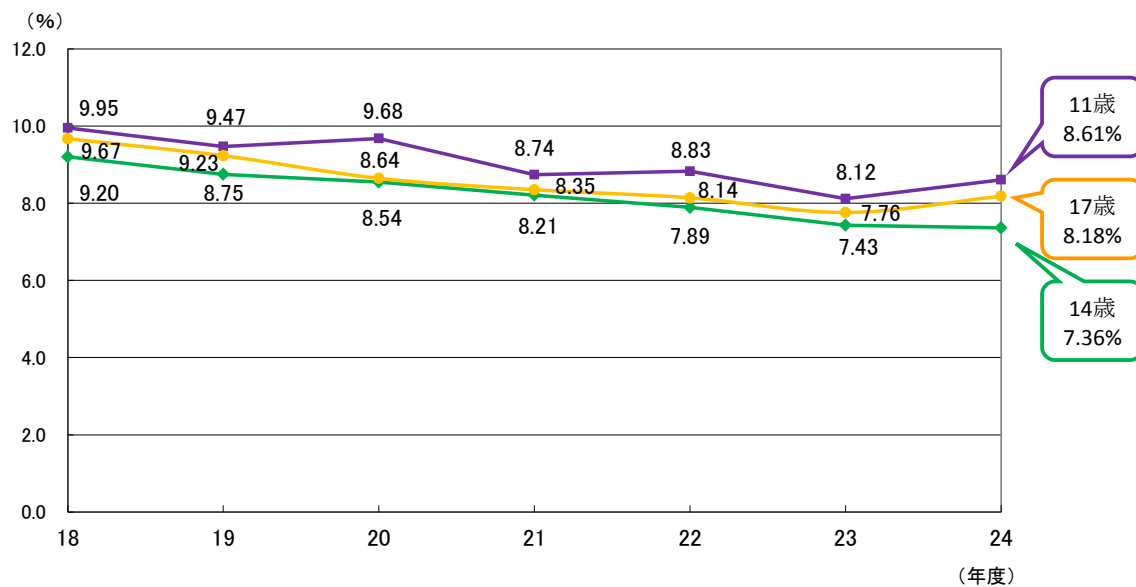
(参考)肥満傾向児の出現率の推移

男子11歳、女子11歳及び17歳については、やや増加傾向が見られるが、全体としては、肥満傾向児の出現率は減少傾向にある。

男子



女子



6. 主な疾病・異常等の推移総括表

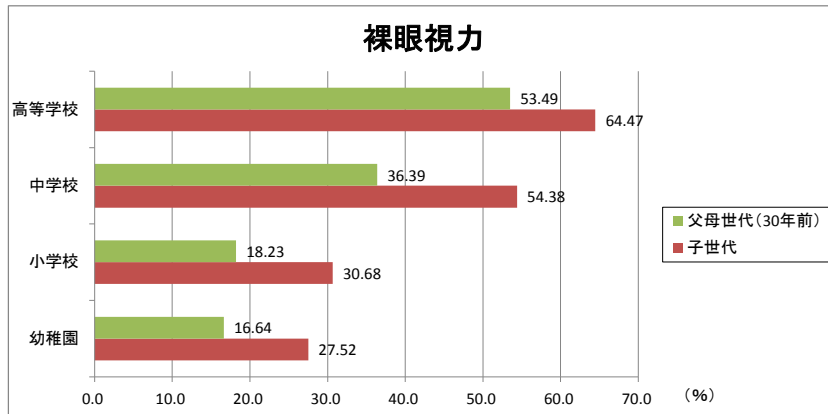
近年(ここ5年間)大きな変化は見られないが、むし歯に関しては改善傾向が見られる。

		(%)								
区 分	裸 眼 視 力 1.0 未 満	耳 疾 患	鼻 ・ 副 鼻 腔 疾 患	口 腔 咽 喉 頭 疾 患 ・ 異 常	む し 歯 (う 歯)	心 電 図 異 常	蛋 白 検 出	寄 生 虫 卵 保 有	ぜ ん 息	
幼稚園	平成14年度	26.54	2.02	3.46	2.41	61.46	…	0.37	0.41	1.26
	20	28.93	2.80	3.78	1.74	50.25	…	0.49	0.12	2.65
	21	24.87	2.91	3.98	1.96	46.50	…	0.62	0.15	2.15
	22	26.43	3.34	3.39	1.86	46.07	…	1.01	0.09	2.74
	23	25.48	2.54	4.37	2.38	42.95	…	0.76	0.12	2.79
	24	27.52	2.60	3.50	1.46	42.86	…	0.58	0.07	2.33
小学校	平成14年度	25.67	4.31	11.21	2.21	73.85	2.17	0.58	0.94	2.67
	20	29.87	5.23	11.86	1.75	63.79	2.67	0.69	0.33	3.89
	21	29.71	5.47	12.57	1.63	61.79	2.51	0.81	0.30	3.99
	22	29.91	5.43	11.66	1.52	59.63	2.48	0.75	0.27	4.19
	23	29.91	5.52	12.50	1.51	57.20	2.51	0.75	0.22	4.34
	24	30.68	5.39	12.19	1.27	55.76	2.30	0.75	0.20	4.22
中学校	平成14年度	49.04	2.57	9.43	1.29	71.24	3.13	2.07	…	2.18
	20	52.60	3.55	10.82	1.10	56.00	3.45	2.49	…	3.00
	21	52.54	3.35	10.83	0.81	52.88	3.28	2.46	…	2.96
	22	52.73	3.56	10.67	0.82	50.60	3.36	2.61	…	3.02
	23	51.59	3.28	11.75	0.80	48.31	3.36	2.60	…	2.83
	24	54.38	3.62	11.39	0.70	45.67	3.32	2.50	…	2.95
高等学校	平成14年度	63.84	1.68	7.66	0.83	82.25	3.12	1.82	…	1.36
	20	57.98	2.02	8.81	0.59	65.48	3.10	2.82	…	1.82
	21	59.37	2.01	9.61	0.68	62.18	3.33	2.88	…	1.88
	22	55.64	1.61	8.45	0.58	59.95	3.16	2.84	…	2.08
	23	60.93	1.64	8.81	0.58	58.46	3.13	2.92	…	1.94
	24	64.47	1.88	8.63	0.46	57.60	3.02	2.67	…	1.91

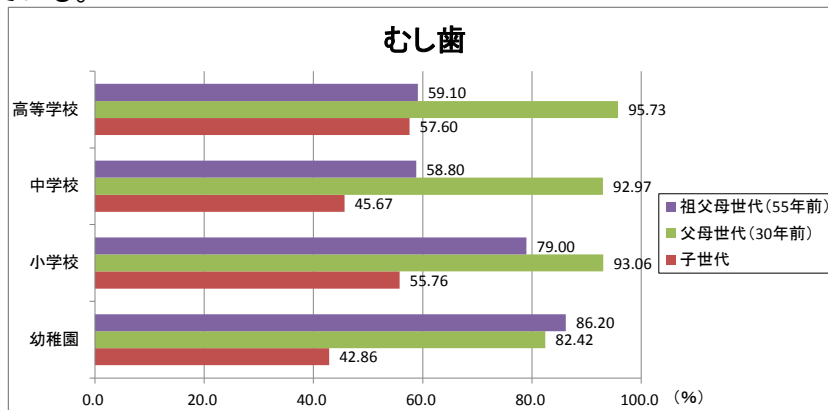
- (注) 1. 心電図異常については、6歳、12歳、15歳のみ実施している。
2. 寄生虫卵保有者については、5歳から8歳のみ実施している。

7. 主な疾病・異常等の世代間比較

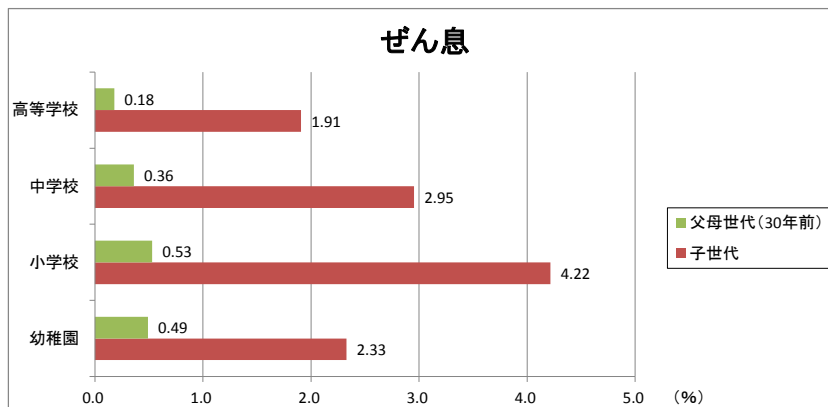
①裸眼視力1.0未満の者は、父母世代に較べ子世代では多くなっている。



②むし歯のある者は、祖父母世代に較べ親世代では多くなっていたが、親世代に較べ子世代では減少している。



③ぜん息のある者は、父母世代に較べ子世代では多くなっている。



④寄生虫卵を保有する者(小学生)は、祖父母世代に較べ親世代では激減し、子世代ではさらに減少している。

